

「孫育て」は無理せず楽しんで

日本では、古来より「里帰り出産」という風習があり、出産前後に多くの女性が自身の実父母の支援を受けています。出産後の女性にとっては実母の支援は非常に力強く、満足感が高く、母親としての成長も促されます。一方、支援する側の祖父母はどうでしょう。

少し前になりますが、私が孫育てを経験された方にインタビュー調査した結果では、祖父は、孫育ては自らの子どもへの支援であり、役割として当然であると認識していました。そして、出生後間もない赤ちゃんに会ったり、頻繁に接触したりする中でかわいさも高まり、孫育てを継続できるよう自身の健康にも気を付けるような姿も見受けられます。

しかし、良いことばかりでは



世代で変わる「育児」を実感

埼玉県立大学教授

大月恵理子

ありません。近年の妊婦の高齢化から祖父母も高齢になりまます。70歳になって初孫に恵まれることもあるでしょう。となるべく、とても無理はできません。

お耳はふさがらないで

湯上りに水分を優しくふき取った後、赤ちゃん用の保湿剤を使ってくると嬉しいな。

お風呂上がりの一杯は母乳がいいなあ

良く泡立てた石鹸（泡ソープが便利）で、手洗いでね。お顔も石鹸で洗うといいよ。

図 新生児の沐浴

(大月恵理子：看護学テキストNICE母性看護学Ⅱマタニティサイクル、第2版（大平光子、大月恵理子ほか編）、p.399、南江堂、2018より改変)

さらに、時代とともに育児の方法などに変化が生じます。そのため、支援に際して思ったほど力を発揮できず、困惑することもあります。その差が大きいほど祖父母は達成感を得られず、出産直後の女性も育児不安が高まるようです。

祖父母世代の育児との違いの例として、母乳哺育や沐浴があげられます。祖父母世代は、母乳分泌をよくするために乳房のマッサージをしていたと思いますが、今は、良い抱き方で深く吸わせ、頻回に授乳することが勧められます。もし、母乳が不足してミルクを足すときも、哺乳瓶ではなく小さなカップで与えるように教わることもあります。新生児の沐浴も、図の吹き出しにあるように、耳を抑えず、泡のソープでガーゼではなく手で洗い、湯上りに保湿剤を塗布することが勧められるなど、それなりに違いがあります。

新米お母さんも、新米お祖母さんとお祖父さんも、お互いに「今のやりかた」や「できること」、できないことを言葉として伝え合い、共有して、ほどほどの距離感でつきあいましょ。